

APHS 参加報告

市立東大阪医療センター
消化器外科／ロボット手術センター／腹部ヘルニアセンター
谷田 司

この度は APHS Scholarship 2025 に選出して頂き感謝申し上げます。私は 2 年前のペナン、昨年のシンガポールに続き、今年のインドで 3 度目の APHS への参加になります。

インドに来るのは初めてでしたが、渡航前から食事も街も危険が多いとの情報もあり、かなり警戒して入りましたが、現地の方や日本の先生方のサポートのおかげで、多くの有意義な経験ができ、無事に帰国できました。

APHS はインディラ・ガンジー空港から車で 15 分ほどのエアロシティという区域にあるマリオットホテルで行われました。学会前日にまず観光をすることに。インドに来たらタージマハルは見とかないと帰れないとなり、ニューデリーから途中でチャイを飲みながら車で片道 4 時間。タージマハルの素晴らしい建築に触れ、インド文化の歴史の深さとスケールの大きさを感じました。

学会ではアジア各国の先生方の発表を拝聴しましたが、積極的に議論がなされており、アジアのレベルの高さを感じました。また懇親会でアジアの先生と交流することでヘルニアへの熱意を感じることができ、多くの刺激を頂きました。私の発表はロボット鼠径ヘルニアに関する口演でした。当院の成績と手技を発表しましたが、アジア諸国(インド、韓国などは特に)の先生方のロボットへの関心も高く、これから発展する分野であると感じるとともに、アジア諸国と協力して、さらに技術を発展させる必要性を感じました。

来年は大阪で APHS が開催されます。今回の APHS での貴重な経験を来年の APHS に生かして、来年の学会の成功に貢献できればと思います。

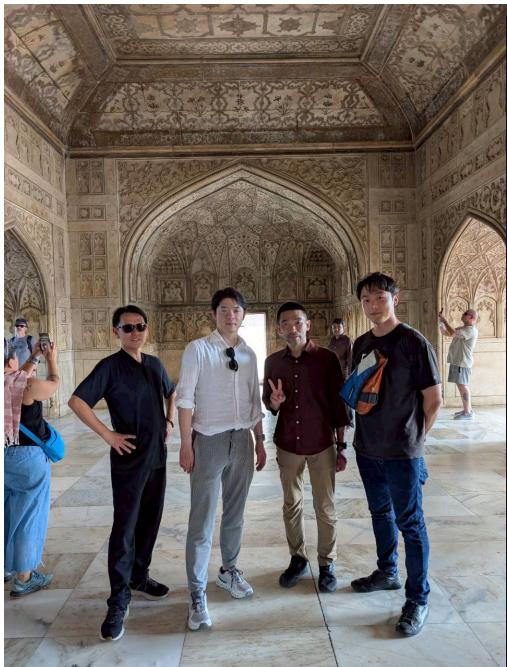
APHS 会場にて



自身の発表



アグラ城にて



タージマハルでの観光

